

①第2期志摩市子ども・子育て支援事業計画について

意 見	担当課	回 答
地域のつながりが深く、世代を超えて子どもや親を見守り育てている地域の強みを生かしていける取り組みが積極的に行っていけるとよいと思う。	こども家庭課	関係各課と連携し、委員の皆さまの意見を頂戴しながら実施していけたらと思います。
幼稚園型一時預かりについて、R元、10月からの無償化に伴い、保護者負担額の1日当たりの450円の無償化制度が2号認定のみ3か月に1度始まりましたが、年度内に清算するために工夫ができるといいと思います。（志摩市独自の方法があると保護者から喜ばれると思います。）	こども家庭課	年度内に清算するためには、4月早々に請求書を提出していただく必要があります。無償化制度が始まり、半年が経過してきたのですが、まだまだ定着していくには時間もかかるかと思います。今後の清算方法につきましては、他市町の情報等も得ながら、検討することも考えています。
多くのことを網羅していてよいと思います。		
志摩市は中学3年生の給食費を無料としていくなど、ここに挙げられた幼稚園等の無償化といった市民の子育てがしやすいよう整備が進んでいるように思います。もっと市民にこういう施策（の動き）を広めていただければと思います。	教育総務課	今後、給食費の無償化の対象を段階的に拡充するなど、施策をさらに広めていくことについては、事業効果も含めた検討が必要であると考えます。
・P.72～ 3 教育・保育の質の向上へ向けた取り組み 教育・保育の質の向上には、職員一人ひとりに対する園内外での研修の充実と保障は言うまでもなく大切ですが、ハード面として教育・保育の環境を整えていくことも大切な視点かと思えます。（保育環境の充実 施設や設備の充実 職員のゆとりある配置など）例えば、養護教諭や看護師の配置があれば、より健康に留意した安全・安心な教育・保育の質の向上につながるのではないのでしょうか。 ※基本理念や基本目標の施策、その他の章にも「地域とともに…」 「地域ぐるみで…」の文言があります。子どもと子育てに関わる関係機関や団体、地域組織とのネットワークが、この計画の推進に大きく関わってくるように思われます。その体制づくり、協働が大切だと考えます。 ※保育所及び幼稚園に通う3歳児から5歳児の給食費無償化は、子育て家庭の大きな支援となりました。今後も、施策の推進に期待しています。	こども家庭課	鵜方幼稚園には、養護教諭が1名配置されていますが、保育所につきましては、看護師が配置されていません。看護師の募集は常時行っておりますが、応募がなかったのが現状であります。令和2年度も引き続き看護師の募集を行っていきます。

①第2期志摩市子ども・子育て支援事業計画について

意 見	担当課	回 答
アンケートの回収率の低さが気になった。	こども家庭課	今後アンケートを実施していくときは、少しでも回答していただく方の負担が軽減され、回収率の向上につながるよう、検討していきたいと思います。
第1期において“量”的なものは確保できていると思います。 第2期では“質”的な部分にもスポットが当たればと感じます。		

②第1期志摩市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

意 見	担 当 課	回 答
保育所・幼稚園・児童館・放課後児童クラブへの緊急地震速報装置を設置していただき、ありがとうございます。		
今年度より、しまの杜放課後児童クラブへ補助していただくことになったので、行事等の保護者負担がなくなり、内容も充実することが出来ました。		
資料1サービスの見込量で、達成状況のEについて、そのサービスを知らないということはないのか、とも思いました。	こども家庭課	子育て短期支援事業については、各種相談対応時の案内などでの周知をおこなっています。H30年度はひとり親家庭の親の勤務の関係での利用がありました。制度自体を知らなくても親や親戚からこども家庭課に困りごとの相談があれば制度を案内し、必要があれば利用出来るようになっていきます。しかしながら、所得によっては有料であること、最寄りの施設が志摩市内ではなく、近隣市町内であるため学校等に登校出来ない可能性があるといったことから、結果的に利用に至らないことが多いです。また、周囲が必要と認めていても保護者が必要としない場合については、必要に応じ在籍機関等と連携して、その他の制度も含め対応しています。
資料1～ ・教育・保育施設の量の見込み… 提供量範囲内でおさまり、待機児童0人ということですが、第1希望の施設に入ることが叶わなかった子どもが何名いたのでしょうか。その点が気になりますし、また、心配でもあります。難しい問題ではありますが、丁寧なフォローが求められるように思われます。	こども家庭課	途中入所で第一希望に入れず入所保留となったのは27名でしたが、内24名は第一希望以外の空きがあったものの、入所保留を選んでいきます。申込みの受付時には、書類等を確認するだけでなく、育休の延長が可能かどうかの相談や聞き取りを行い、保育者のニーズに近くなるように説明や案内を行っています。
資料1-1～ ・子育て支援センター… 各センターへの補助がなされていますが、地域で取り組んでいる団体やグループに対しては何らかの補助・対応があるのでしょうか。（地域ぐるみで子育てを支援するまちづくりという視点で質問しました）	こども家庭課	補助金による対応はありません。

②第1期志摩市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

意 見	担 当 課	回 答
・志摩市産の食材を使用した給食の回数をもっと増やしてほしい。	教育総務課	昨年10月から志摩市産のお米「志摩そだち」を全ての米飯に使用しています。今後も1日約3,150食の食数に対して安定的に使用できる食材があれば、増やしていきたいと考えます。
・資料1「志摩市における子ども・子育て支援サービスの見込み量（需要量及び確保の方策）の状況」の中の、子育て短期支援事業について、昨年利用者なしであったと思うが、利用すべき状況にあっても制度を知らないといったことがなかったか、又は周囲は必要と思っていなくても、本人は必要としていないといったことがなかったか等、本当に必要がなかったのかどうかの検証が必要だと思う。	こども家庭課	子育て短期支援事業については、各種相談対応時の案内などでの周知をおこなっています。H30年度はひとり親家庭の親の勤務の関係での利用がありました。制度自体を知らなくても親や親戚からこども家庭課に困りごとの相談があれば制度を案内し、必要があれば利用出来るようになっていきます。しかしながら、所得によっては有料であること、最寄りの施設が志摩市内ではなく、近隣市町内であるため学校等に登校出来ない可能性があるといったことから、結果的に利用に至らないことが多いです。また、周囲が必要と思っていなくても保護者が必要としていない場合については、必要に応じ在籍機関等と連携して、その他の制度も含め対応しています。また、検証については、利用に至らなかったケースも含め、相談があった事案について関係機関とのケース会議を実施し、検証を行っています。
色々な施策を通しての量の確保に満足しています。		

③その他

意 見	担 当 課	回 答
会議の委員を務めさせていただき、改めて事業計画を読みこむことで、自分自身の認識不足を痛感したり、保護者の思いに気づかせていただきました。ありがとうございました。		
アンケート調査の中で、経済的な不安が多いことがみられる。働く場所が少なく、収入も安定しないことが子育て不安につながるので、魅力あるまちづくり、若い世代に愛される市にしていけるよう真剣に考えていく必要がある。	こども家庭課	志摩市全体の問題として、関係各課が連携して取り組んでいければと思います。
アンケートの項目が多いので保護者の負担になっている。	こども家庭課	昨年アンケートを作成したときにも委員からご指摘をいただき、可能な限り削除しましたが、きめ細やかなニーズ調査を実施するための必要な項目としてご理解いただければと思います。今後アンケートを実施していくときは、少しでも保護者の方の負担が軽減されるよう、検討していきたいと思います。
子育てしやすい市を目指して、いろいろ考えていただきありがとうございます。これからもよろしくお願いします。		
施策のための予算と人的配置があるかが心配なだけです。計画の立案、会議の運営ご苦労様でした。		
地域の企業における育児休業の取りやすい環境を作るための取り組みをより具体的に検討していただきたいです。また、この事業を市内外に大きくアピールして少しでも市内の少子化が緩やかになればよいと思います。	こども家庭課	前回の会議において、まずは市の男性職員が積極的に育児休業を取得し、民間企業への見本となるようご意見をいただいたところです。市役所全体の問題として取り組んでいければと思います。
・幼稚園・保育所の入所率の低さが気になりました。空きスペースを子育て支援の場として有効に活用していく方法を検討していくことも必要だと思う。	こども家庭課	幼稚園では、空き教室を使って、預かり保育を実施したり、構成遊び（積み木・ブロック等）や大きい物を作成したりする場合に使用しています。また保育所では、空き教室を利用して、園庭開放時に来る方たちの部屋として利用したり、ステップアップ教室の部屋として利用したり、延長保育の場として利用したりするなどの工夫は行っております。

③その他

意 見	担 当 課	回 答
・ 前回の会議でも言いましたが、5歳児の発達検査は実施するべきだと思う。1歳半や3歳児でも発達検査は実施していますが、5歳児の検査ではコミュニケーションの検査が実施される。学校へ行ったときに、友達とのコミュニケーションがうまくいかないと、いじめの原因になったり、不登校につながったりする。検査で課題を見つけていくことで、支援をすることが出来、子どもとのかかわりに悩んでいる親御さんへのヒントにもつなげることが出来る。予算措置をお願いしたい。	健康推進課	厚生労働省によると、5歳児健診の最大の目的は、「保護者が発達障害に気づく」こととなっており、この気づきから、その地域の療育や相談システムに乗せるように方向付けすることが大切になってきます。 志摩市では3歳児健診において、集団生活を通して気づく機会となる軽度の発達障がいや、社会性の発達障がいなどを、できる限り見落としがないよう集団遊びの場を設け、発達障がい者支援を担う保育士（みえ発達障がい支援システムアドバイザー）・保健師・臨床心理士の3者による行動観察を行っています。また、問診や発達検査を通してコミュニケーションについて気になる子どもが早期に適切な支援につながるよう、健診の場で臨床心理士による発達相談の場を設けています。このことにより、保護者の心配や不安に対しても対応できる環境が提供できています。 さらに、5歳児健診に代わる体制として、発達障がい者支援を担う保育士（みえ発達障がい支援システムアドバイザー）や保健師・教員が、定期的に保育所や幼稚園に出向き、集団生活の場での子ども達の様子を確認し、「CLM（チェック・リスト・イン三重）と個別の指導計画」（三重県立子ども心身発達医療センターが開発した、保育所・幼稚園等で使用する気になる子の早期支援のための具体的な支援ツール）により、お子さんによっては5歳児になる前段の保育所から、個別の指導計画に沿った具体的な支援を提供しています。 これらのことから志摩市では、5歳児健診と同等またはそれ以上の支援を早期から提供する体制が整備できていると考えます。
新型コロナウイルス感染症の拡大が進んでいるが、事業量確保が計画どおり進まない可能性が予想されるので、この件について触れる必要はありませんか。	こども家庭課	新型コロナウイルスに関しましては、今後どのような対応が求められるか予測が立てられない部分も多くありますが、国等の指導を受けながら、関係各課と連携し、迅速に対応していきたいと思います。

③その他

意 見	担 当 課	回 答
事業内容の一般家庭（個人）、企業への啓発及び周知が施策の充実に繋がると思います。また、この事業のアンケート調査により各家庭の生活（育児）について知ることができましたので、シルバー人材センターで何かできる育児支援等はないかとセンター内で協議をすすめていきます。		